







第3 遺言 ～相続？争続？トラブル防止のために～

いったい誰が相続人？ ～相続人と法定相続分～

相続順位	法定相続人と法定相続分	
第1順位 子供がいる場合	配偶者  $1/2$	子ども  $1/2$ ※人数で分割
第2順位 子供がいなく、 親がいる場合	配偶者  $2/3$	親  $1/3$ ※人数で分割
第3順位 子供と親が共にい なく、 兄弟姉妹 がいる場合	配偶者  $3/4$	兄弟姉妹  $1/4$ ※人数で分割





- 配偶者は常に相続人となります。
- 配偶者がいない場合は、上記の相続順位に従って相続します。
- 相続人となる子や兄弟姉妹が既に死亡している場合には、その子（被相続人にとっての孫やおい・めい）が相続人となります（「代襲相続」）。

遺言書 ～きちんと伝えたい、大切な人へのメッセージ～

遺言書とは、誰にどの財産をどれだけ相続させたいかを指定し、その指定に法的効力を持たせるものです。法律にのっとって作成された遺言書の記載は、法定相続分のルールに優先します。そのため遺言書は、ご自身の財産をご家族へ確実に託し、相続をめぐる紛争を防止するための有用な手段です。

どちらにする？ ～自筆証書遺言と公正証書遺言～

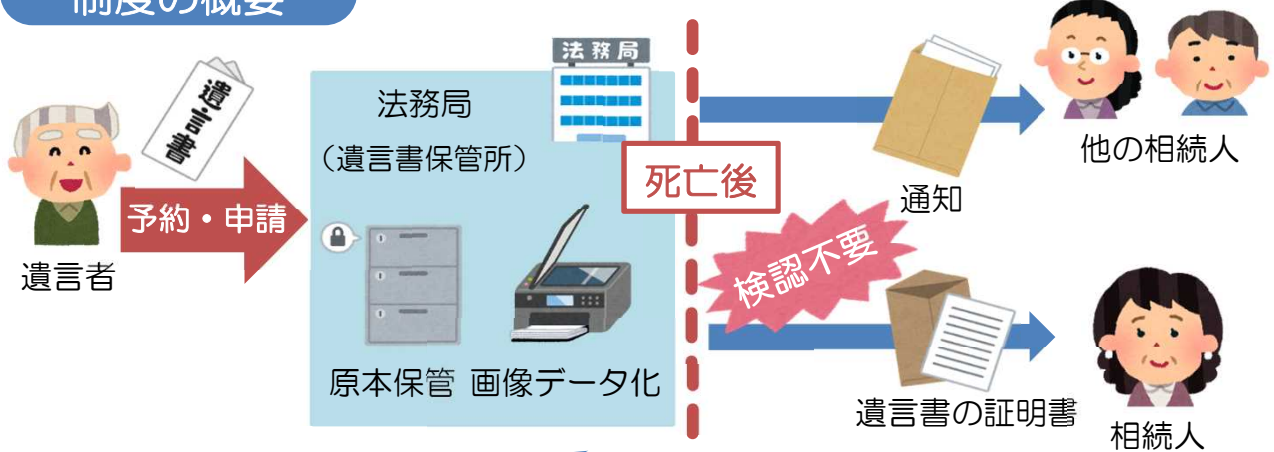
遺言書には、自筆証書遺言、公正証書遺言、秘密証書遺言の3つの形式があります。このうち、自筆証書遺言と公正証書遺言について、その違いを表に示しました。

	自筆証書遺言	公正証書遺言
作成方法	遺言者本人が全文・日付・氏名を自書及び捺印する	遺言者が公証人に遺言の趣旨を口授し、公証人が書面にする
保管方法	遺言者本人の判断により、自宅で保管又は法務局に預ける <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;"> 法務局に預けた場合、 ・長期間適正に保管します ・プライバシーを確保できます </div> 	原本は公証役場において厳重に保管される <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;"> 安心安全 </div>
家庭裁判所の検認	必要 <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;"> 法務局に預けた場合、検認は不要です </div>	不要
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・作成費用がかからない ・作成に手間がかからない 	<ul style="list-style-type: none"> ・無効な遺言書になりにくい ・紛失や改ざんのおそれがない
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・内容に不備があると無効になる可能性がある ・自宅保管の場合紛失や改ざんのおそれがある ・自宅保管の場合相続人に発見されないことがある 	<ul style="list-style-type: none"> ・費用がかかる ・作成が手間 <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;"> 法務局に預けた場合、紛失等のおそれなくなります </div> <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;"> 法務局に預けた場合、関係相続人等に遺言書保管の事実を通知することができます </div>

法務局に預けて安心！自筆証書遺言書保管制度とは！

令和2年7月10日から、自筆証書遺言書を全国の法務局（本局・支局）で保管する制度、「自筆証書遺言書保管制度」が始まりました。

制度の概要



メリットは??

- ・家庭裁判所での検認が不要です！
- ・遺言書が紛失・亡失するおそれなくなります！
- ・遺言者の死後、相続人等に遺言書が保管されていることを法務局から通知します。

相続開始後は??

- ・相続人等は遺言書の証明書の請求や、遺言書の閲覧等ができます！
- ・相続人等が遺言書の証明書の交付を受けたり、閲覧をすると、遺言書を保管していることを法務局から他の相続人に通知します！

あなたの最後の意思表示が確実に伝わります！
相続トラブルを防ぎ、相続手続きが円滑に進みます！

手数料

遺言書の保管の申請	3,900円
遺言書の閲覧の請求	1,400円（モニターでの閲覧） 1,700円（原本での閲覧）
遺言書情報証明書の交付請求	1,400円
遺言書保管事実証明書の交付請求	800円

自筆証書遺言書保管制度の詳細は法務局HPのQRコードからご覧ください



※1通あたりにかかる手数料